

βάπτισμα

バプティスマ

知っておきたいキリスト教のことば (166)

バプテスマ ばぷてすま

今回は「バプテスマ」について説明します。といいましても、ここではその意味について触れるのではありません。意味についてお知りになりたい方は、「洗礼」の項をご覧ください。

新共同訳聖書や聖書協会共同訳聖書には、「洗礼」という漢字の横に〔バプテスマ〕という小さな文字が付けられています。これは一般的なルビとは少し異なります。

聖書協会共同訳聖書の凡例を見てみると、このように書かれています。

なお、訳語「洗礼」については、「せんれい」と読む場合のほか、「バプテスマ」と読む場合を考慮し、例外として〔バプテスマ〕の振り仮名を付した。

キリスト教には様々な教派があり、洗礼の方法も額(頭)に水を注ぐやり方や、全身を水に沈めるやり方などがあります。

バプテスト教会などでは全身を沈める、いわゆる「浸礼」を大切にしており、洗礼という訳語に違和感があるそうです。そこで「バプテスマ」と読んでも良いように、振り仮名を付したというわけです。

それでは聖公会ではどのようにしたらよいのでしょうか。聖餐式聖書日課(A年・B年・C年)にはこのようにあります。

洗礼は、『聖書 新共同訳』の凡例にもあるとおり「せんれい」と読む。

すべての教派の人が同じ聖書を使えるように、様々な工夫がなされていることを覚えたいと思います。

次回は「ハレルヤ」です。お楽しみに。



「キリストの洗礼」

チーマ・ダ・コネリアーノ

(1459-1517年)

そのころ、イエスはガリラヤのナザレから来て、ヨルダン川でヨハネから
〔バプテスマ〕
洗礼を受けられた。

(マルコによる福音書1章9節)

